



JAPAN HANGGLIDING FEDERATION

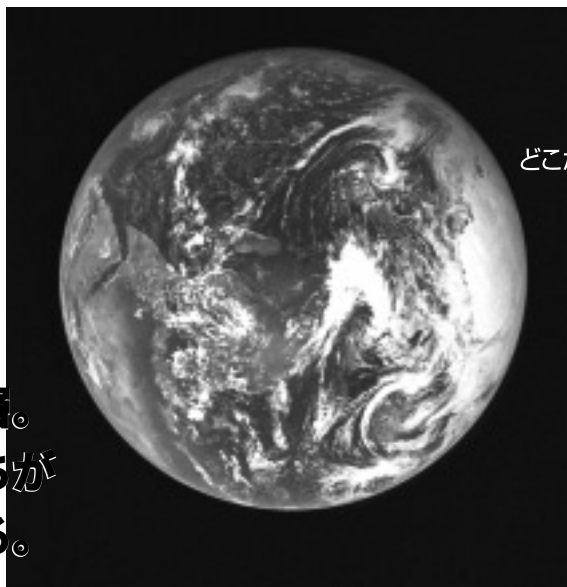
JHFレポート

1・2月号
2001年

(社)日本ハンググライディング連盟 発行

<http://jhf.skysports.or.jp/>

地球を被う空気の間。
このなかに、私たちが
愛おしむ世界がある。



サン＝テグジュペリは
星の王子さまに言わせている。
「砂漠が美しいのは、
どこかに井戸をかくしているからだよ……」
この青い星が美しいのは、
どこかに私たち一人一人の大切な
井戸をかくしているから……

新年のごあいさつ

社団法人日本ハンググライディング連盟 会長 川添 喜郎

2001年明けましておめでとうございます。

愈々21世紀の幕開けの年。ハング・パラグライディングフライヤーをはじめ、教員、スクール、業界、関係する皆様に、より良き年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

さて、JHFは5年前に社団化を達成して以来、組織の改革と充実を進めてまいりましたが、2000年よりフライヤー会員登録を本格的に実施、会費による組織運営がなされるようになりました。事務局も文京区春日に移転、自前の本拠を構えることができ、予算も1億円を超える規模となりました。この規模は日本の航空スポーツ団体では最大で、組織が一丸となって取り組んできた、

社団化と組織改革の成果と評価されます。

20世紀中に整えた組織の形を生かし、21世紀は内容を充実させる「振興」の時代にしなければなりません。宇宙時代にふさわしい身近な三次元のスポーツとして、ハング・パラグライディングをメジャーで国民的スポーツとして振興することが私たちの願いです。

統計では技能証申請者数は今も下降傾向ですが、フライヤー会員登録有効者数はやっと下げ止まりました。明るい兆しの一つととらえ、新しい仲間の輪が広がり振興のきっかけとなることを願っています。健全な普及・振興は、省庁・自治体はじめスクール・業界との総合的協力関係により生まれ

るものと思いますが、その礎となるのはフライヤーの日頃の「安全で楽しいハング・パラグライディング活動」であることは言うまでもありません。

私たちの活動を見て「私も空を飛んでみたい！」という方々が現れるような素晴らしい世界を共に築いていきましょう。

今年も宜しくお願い申し上げます。



JHFレポート 1・2月号

Contents

- P 2 **新世紀特別記事** 航空界の事始め—
100年を振り返る〈前編〉
20世紀は「航空の時代」だった。
- P 4 **安全講座** 雲中飛行
安易な考えが事故につながる。
- P 6 PG & MPG 日本選手権報告

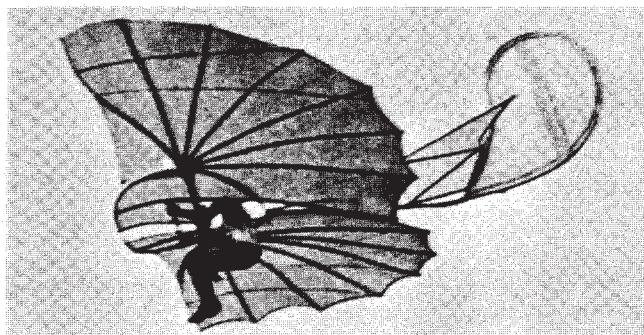
- P 8 県連だより〈岡山県ハンググライディング連盟〉
- P 9 県連ニュース カレンダー
- P 10 委員会の動き JHSC型式登録機
- P 11 JHFの役員選挙について 連絡ノート
- P 12 理事会ダイジェスト 理事活動報告
- P 13 @sky 空の楽しさ満載の情報ページ。

航空界の事始め—100年を振り返る

前編

飛行への渴望につき動かされた人間たちが、広大な空を航り始めた。
「航空の時代」20世紀、パイオニアの100年を振り返る。

航空ジャーナリスト 矢ヶ崎 弘志



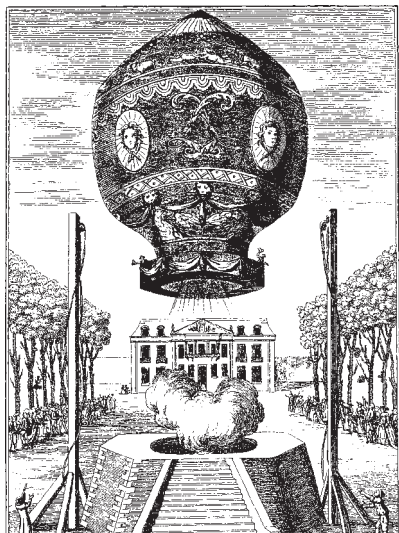
リリエントールのグライダー

航空の時代への序曲

20世紀は航空の時代であった。とはいっても、人間は1901年になったとたん空を飛びはじめた訳じゃないので、19世紀以前にも少しばかり触れておく必要がある。

まずは、18世紀から……。

1783年のこと、フランスのモンゴルフィエ兄弟の作った熱気球が、ダルランド侯爵とピラトル・ド・ロジエの二人を乗せて空に昇った。人類が人工物により宙に浮いた最



モンゴルフィエの熱気球

初の記録である。

当時は空気がどの高さまで存在するかさえ定かでなかったから、国王ルイ16世などは、危険だから監獄にいる重罪人を乗せろとの意見だったらしい。それを押さえて志願した二人は度胸があった。ただし、モンゴルフィエが心配性な医学者の助言を受け入れ、羊と鶏と家鴨を使って実験し安全を確かめた上でのことだから、単なる向こう見ずではない。

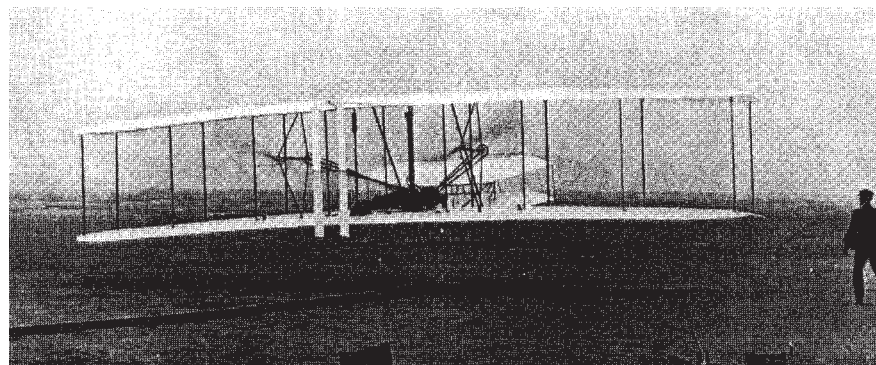
それから一世紀あまり過ぎた1891年に、ドイツのオットー・リリエントールがハンググライダーでの飛行に成功した。熱空気や水素ガスの浮力に頼らない、いわゆる重航空機を使っの初飛行である。

リリエントールは機体に改良を加えながら2,000回を超す滑空実験を行ったが、5年後の1896年に墜落死した。斜面上昇風を捉え

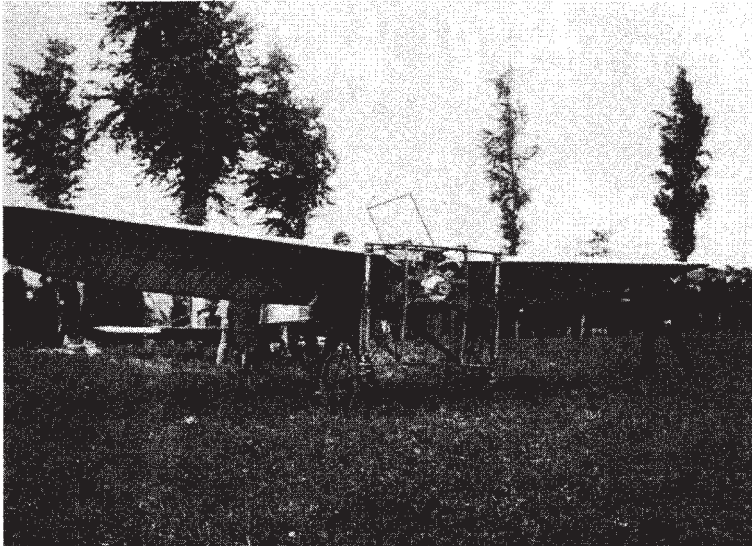
ようとして安定を崩したのだという。臨終の言葉は「進歩には犠牲がともなう」。

こんな状況で19世紀は終わりを告げた。いや、厳密にいうと1800年代すでにロシアのアレクサンドル・モジャイスキーだの、フランスのクレマン・アデルなどが、飛行機を試作し飛行実験を行ってはいる。だが、いずれもゲテモノで、まともに飛びはしなかったのだから、詳しいことは省略してもよからう。大勢に影響はない。(実をいうと、ゲテモノのほうが面白い話が多いのだが、キリがなくなってしまうので)

ひとつだけ付け加えると、かつてフランスと旧ソ連は、それぞれアデルとモジャイスキーを飛行機の発明者であると主張していたが、世界からは完全に無視されていた。バツタにも劣る飛行だったんだから当然だろう。



ライト・フライヤーⅠの初飛行



英仏海峡を越えたブレリオXI



世界最初の航空イベント、ランス飛行大会のポスター（1909年）

飛行機はアメリカ生まれの フランス育ち

1903年12月、ライト兄弟の飛行機フライヤーⅠが初飛行に成功した。動力付き航空機が誕生したのだ。長年カイトやグライダーで基礎データを集め、試行錯誤をかさねた末の成果であった。兄弟は学術的な素養を持たなかったが、かえってそれが幸いし、既成の常識にとらわれずに研究を進められたのだといえよう。

だいたい、当時の信仰心があつい人々からみれば、機械に乗って空を飛ぶなど神を怖れぬ行為であった。そういう人たちに「もし人間が空を飛ぶのをお許しになるのなら、なぜ神はアダムの背中に翼をお与えにならなかったのか？」などとせまられたら、反論にはてこずったことだろう。しかし、そんなことで怯むような人間が、空飛ぶ機械の研究などに熱中するはずはなかった。

話がそれた。ライト兄弟の最大の功績は、人類最初の有人動力飛行を実現させたことよりも、空中での旋回にはバンクが必要だと気付いた点にある。当時ヨーロッパ——特にフランス——でも飛行の研究は進んでおり、解明できずにいたのは旋回の問題ぐらいなものだったといつてよい。その証拠に、1908年ライト兄弟がヨーロッパに渡り、初めて公開飛行してみせたら、すぐに何種類もの機体が飛行に成功したのである。

なんといってもヨーロッパの技術水準は高く、ヒントさえつかんでしまえば後は早

かった。またたく間にライト兄弟機をしのぐ機体が続出し、1年後の1909年にはフランスのルイ・ブレリオが特注品のブレリオXIで英仏海峡横断に成功するなど航空史に残る飛行が行われて、主役の座はアメリカからヨーロッパに移ってしまう。

それからの航空界はフランスの天下であった。アメリカが第一線に再登場するのは1920年代になってからのことである。ライト兄弟はどうなってしまったかというと、これが何とも冴えない。特許をめぐるライバルとの訴訟合戦に忙しかったせいも、新機種もいくつかは制作してはいるが時代遅れのものばかりであった。フライヤー・シリーズの開発で燃え尽きてしまったのだという説もある。

一方、航空先進国となったヨーロッパは活気があふれていた。各地で相次ぐ飛行大会の開催と、そのたびに更新された記録がヨーロッパ航空界の黄金時代を物語っている。

飛行機はアメリカで誕生したが、育て上げたのはフランスをはじめとするヨーロッパであった。

戦乱の中で実用化

数々の冒険飛行が華やかになったころ、第一次世界大戦が勃発した。一応は実用の域に達していた飛行機は、さっそく軍隊で使われるようになる。戦場での経験が設計に反映されて機体の実用度は一段と増し、

また空中戦で鍛えられたパイロットによって、より高度な操縦技術が編み出された。戦争が終わった時、飛行機はハード、ソフトの両面で大きく成長していたのである。

さらには、意外な副産物まであった。平和が戻り不要になった軍用機が、ただ同然の値段で払い下げられ市場にでまわったのだ。旅客機だって、これを買って改造した機体ははじまりだし、軍隊で操縦を習い復員しても空の魅力が忘れられないパイロット達も、手に入れてメシのたねにした。ドサ回り曲芸飛行ショーを開業したのである。

大戦直後の1919年、イギリス人オルコックとブラウンが行った初の大西洋横断無着陸飛行（ニューファウンドランド→アイルランド間）もまた、その好例であろう。この二人はイギリス空軍の将校だったし、使用機は爆撃機を改造したものであった。初の大西洋横断無着陸飛行の名誉はオルコックとブラウンのもの。リンダーバーグのものではない。

これは戦勝国がわの話であるが、負けたドイツでも思わぬ現象が起きた。グライダーの出現である。ドイツは講和条約で航空活動を厳しく制限されてしまったが、動力が無ければ制限に触れないことに気付いた航空人達がグライダーで空を飛びはじめたのである。こうして新しい航空スポーツが生まれた。封じ込めたつもりがもたらした、皮肉な——ただし航空界にとっては幸運な——結果である。

そして迎えた1920年代には、空の大航海時代が始まるのだが、以後については別稿ということにしたい。

雲中飛行

安易な考えが事故につながる

フライヤーを誘うように青空に浮かぶ雲。

雲底について旋回しているうちに、いつの間にか真っ白な世界に。

上下左右の感覚が狂い、飛んでも飛んでも脱出できず、焦りがつのる……

あなたは雲中飛行を「たいしたことではない」と考えていないか。

「GPSやコンパスがあれば問題ない」と思い込んでいないか。

2人のベテランインストラクターとともに雲中飛行を考えよう。

上下左右真っ白になり水平感覚が狂う… 雲中では正常な飛行姿勢を保てない。

スカイパーク宇都宮 チーフインストラクター 早野 伸一

青い空にポッカリ浮かぶ白い積雲をみつけると、フライヤーなら誰しもいろいろと想像をめぐらすに違いない。

我々ハング・パラフライヤーにとって積雲はサーマルのサインであり、サーマルに乗って雲底につくことは、その高低にかかわらず大きな喜びである。雲は当然下から見上げるより大きく、東京ドームほどもあるような雲が、少しずつ形を変えながら大空に浮いている様は感動的で、それに向かって上がってゆく自分が大自然の中の非常にちっぽけな存在に感じられ、さながらドンキホーテのような気分になるのは私だけだろうか？

■ハング・パラは雲底高度まで

前置きが長くなりましたが、我々フライヤーに許されている到達高度は雲底までです。雲の無いブルーサーマルの日にはどこまで上がってもかまいませんが、雲のあるときは雲底までです。

これはハング、パラグライダーはV.F.R.(有視界飛行)しか許されていないからです。もちろん雲の中はまったく視界が利きません。どうしても飛んでいると、1mでも高く上がりたいと思うのがフライヤーの性ですから、ここで雲中飛行の可能性ができます。

雲底まで上がったことのある人にはわかるとは思いますが、下から見てみると平らな雲底でも、実際に行ってみるとぼやーっとして、はっきりここが雲底であるというのがわかりません。

経験あるパイロットなら周りが霞んでくるのをいち早く認識して離脱できますが、どうしても経験の浅いパイロットは気付くのが遅れ、下が完全に見えなくなってから慌てるということになります。

■雲中の危険

ここで雲中飛行はなぜ危険かという、まず上下左右真っ白になってしまうと水平感覚がおかしくなって、ピッチロールコントロールが上手くできなくなり、正常な飛行姿勢を保てなくなるからです。パラグライダーでは大潰れをおこしたりもします。次に、周りがまったく見えないので、同時に数機雲に入ってしまうと、空中衝突の可能性が非常に高くなります。もちろん慌ててスパイラル、Bストール等で垂直降下すると、その雲の下にいる人にぶつかることも考えられます。

そして、飛行経路ですが、これも視界が利かないわけですから、真っ直ぐ飛ぶことは不可能です。もちろん雲も流れているので運良く雲から出られても数キロも流され、慣れたエリアでも「ここはどこ？」となってしまいます。

積乱雲に入ってしまうと、上昇気流は雲頂まで続いているので、最悪1万m上空まで連れて行かれ酸欠、疲労凍死となります。

その他雲中飛行の危険性はまだまだありますが、大切なことは雲に入らないということなのです。

ふだんエリアで飛んでいる人たちを見ると、初心者が間違っって雲に入っしま

うことより、経験あるパイロットがわざと入って行くことが多いのに気がきます。これは蛮勇以外の何ものでもありません。確かに、GPSを使えば視界の利かない所を飛んでも目的地に向かうことは可能ですが、そこで必要以上のリスクを負って飛ぶことはナンセンスです。前述したとおり一人雲の中に入ると周りの人にも迷惑をかけるということを忘れないでください。「あの雲は入っても良い、あの雲は危ない」と言う人もいますが、入ってよい雲はありません。

下から見てみると、本人が気付くより前に雲中に入っていることがありますから、上級者なら「自分は下が見えていた」と言い張らず、余裕を持って雲から離脱しましょう。

■雲底高度を憶える

ここで雲に入らない為のテクニックですが、かなり経験を積んだパイロットでも、自分の位置から雲底までの高度をビタリと当てることはできません。自信が無ければ最初は200m位手前の所でいったん離脱し、その高度を高度計で読んで憶えておきます。次は50m上げて離脱、といった具合に繰り返して段々雲底に近付きます。雲底に近づくにつれ上昇率が上がることが多いので、降下手段に自信の無い人は無理して雲底まで行かないようにします。雲底でサーマルから離脱しても、吸い込まれる可能性があります。当然、大きな雲の真ん中で雲底につくよりは、雲の縁にいた方が離脱はしやすいでしょう。

このようにして一度雲底高度(自分の上昇限界高度)を憶えておけば、基本的に周りの雲も雲底高度は同じですから、高度計を見て無駄なく余裕を持って雲から離れることができるはずですよ。

ただし長時間フライトしていると、気温の変化とともに雲底高度も変化してくるので注意してください。

最後に、雲の吸い上げに捕まってしまったら、安全な方向(基本的には風上)に向かって翼端を潰し、アクセルを踏みましょう。これだと大きな沈下と前進速度を得ることができ、吸い上げから逃れやすいと言われてます。周りに他機がなければスパイラル等もありますが、これだと吸い上げの領域から出られないのであまり良い方法とは言えません。

雲は上手く利用すれば、飛べる範囲を大きく広げられる可能性を持っていますが、雲の形、大きさ、危険度などは千差万別で

す。不用意に雲に近付かないように、よく観察して、そして正しい降下手段が確実にで

きるよう練習を重ね、徐々に雲底に近付いていきましょう。



青空にポッカリ浮かぶ白い雲。のどかな風景ではあるが……。

危険だから近付かないのではなく、身近な存在の雲がなぜ危険なのかを知る。

トノエアーハンググライダーズスクール校長 外村 仁克

雲へと続いている良好なサーマルの中では、乾燥した草原にいるような匂いがすることがあります。それは、最高に良い気分にさせてくれますが、雲の中のあの湿った空気も僕は嫌いではありません。

僕が初めて世界選手権に参加したのは、オーストリアのコッセンでの大会でした。練習日のある日、僕は良好な雲底につきました。それ程大きな雲ではなかったのですが、そのまま上昇を続けました。雲中で高度を稼いで一気に山脈を越えてしまおうと考えたのです。雲中でコンパスを頼りにグライドを始めました。しばらくは周りも明るく、雲底付近にいるのは判っていました。

数分間、ガスの中でグライドを続けていたのですが、大きさから考えても、もう雲の反対側へ出ても良い筈なのに……出られない！ それどころか、だんだんガスが濃くなってきたようで、「やってもうた～」という気分になった時でした。前方が明るくなってきたかと思うと、光の点のような太陽が見えてきたのです。一気にガスが晴れ、雲からボンと飛び出したような感じになりました。視界には岩肌の山々と、ハイジでも出てきそうなアルプスの草原が広がっていました。

あの時の成績は全然憶えていませんが、あの感動は今でも忘れません。

しかし我々ハングやパラも「雲中飛行」はいけないことになっています。確かに過去に何例も誤って雲に入った機体が事故に

遭っています。雲の中は確かに危険なのです。でも最初から「危険だから近付かない」と決めてしまうには、あまりにも身近な存在なのではないでしょうか。むしろ興味を持って見ることで、いったい何が危険なのか、わかってくるように思われます。

こんな言い方は教員失格なのかもしれませんが、僕はいつも「雲があったら入りたい」と考えて飛んできました。そうしていくことで中途半端な判断が最も危険なんだということを体験してきたつもりです。

我々のような海外での競技経験のあるパイロットはサーマルの恐さを知っています。荒れているという意味ではなく、うかつに雲底に近付いたら逃げられないということを経験から知っているのです。サーマルだけではなく、強い斜面風の上には低い

危険な雲底があることもよくあります。雲に吸い込まれ、脱出不可能ということに遭遇しないためには、身近な存在に対して「恐いから近付かない」ではなく「興味があるから知ってみる」の方が正しいのではないのでしょうか。

少なくとも気が付いたら雲の中ということにはならないと思いますが……。

最後に、雲中飛行に限らず上昇風に対する考え方として、「出られないものには入らない」ということをあげておきます。それはパイロットの技術によってかなり違ってくると思いますが、自分の機体の最高速度(フルロック)を安定して出せる技術が伴わなければ、まだまだ先の話だと思って良いでしょう。

自分の命は自分で守る！！

11月25日、宮城県で、パワードパラグライダーのデモフライト中に、フライヤーが体だけ川に落下するという事故が起きた。落下したところは水深約30cm、フライヤーは全身打撲で即死されたそうだ。テイクオフ前にはJHF・FLM教員2名が装備に異常が無いことを確認しているとのこと。初回のライズアップに失敗したので、2回目の時に移動を楽にするためにハーネスのレッグベルトをはずし、そのまま

離陸したのでは、と推測される。

パラグライダーでハーネスのレッグベルトを締め忘れる。ハンググライダーでカラビナにスイングラインをかけ忘れる。そんな「うっかりミス」で何人が命を落してきたことか。テイクオフ前に第三者にハーネスやカラビナの点検を頼むのはもちろんだが「自分の命は自分で守る」という意識を強く持ち、プレフライトチェックを徹底しよう。



やっほい日本選手権 2000パラグライディング 日本選手権つくば

4月のパラグライディング日本選手権は不成立に終わり、10月の予備日にもつれこんだ。強風で幕を開けた仕切り直し戦をレポートする。

報告：JHF 広報出版局 藤木美穂



やりました～!!日本選手権成立でございます!実に3年ぶり。いやあ、よかったよかった。当初、好条件を当てにしていた初日が不成立に終わり、どうなるかとヒヤヒヤしていたのですが、「晴れの特異日」の10日と、選手の頑張り、競技委員長の半谷さんの念力と、岡將軍の魂で成立となりました。私は、初めての大会、初めての取材で、一人でドキドキしていたのですが、皆さん気さくな方ばかりで、楽しく取材をすることができました! それでは、大会のレポートです。

■大会初日(10月6日)

朝からクリアな青空。こんな空で飛べたら気持ちいいだろうなあ、なーんて思っ

て空を見上げていたら、なんだか妙に涼しい。…涼しいどころか、寒いぐらい。風が強い気がしますね。か? ねえ。

茨城県八郷町エアーパーク Coo、この日は、朝から北風さんがゴーゴーでした。飛ばしたいなんて思えないぐらいです。しかーし。大会は始まります。朝7時から機体検査です。何の検査かというと、出場するグライダーがJHSCに登録してあるかをチェックするのです。登録してなければ、その場で運用限界のハンコやシールを貼って、公式審判員の岡さんと日下部さんにチェックしてもらいます。

9時。徐々に高層雲が広がってきて日射

が弱まってきた。「きわどいなー、日選。」という岡さんの顔も渋い。うへん。

受付の後、Coo ショップ前で開会式が行われ、韓国から参加した7選手、そしてフランスのグregory選手が紹介されました。

風がいまいちなため、すぐにテイクオフ地点(以下、テイクオフ)に上がる気配はまったくなし。取材するなら、今がチャンス!! グregoryさんはフランス出身の若手パイロット。私は英語もフランス語もさっぱりなため、なんと恐れ多くも、ポイントシステムランキング1位の扇沢選手に通訳をお願いしてインタビューすることができました。

BLONDEAU GREGORYさん。27歳。パラを始めて6年になるという彼は、実家のチーズ店を手伝いながら、GIN GLIDERSのSHVのテストもやっているプロパイロット。パラを始めたきっかけは、10代の時にスカイダイビングをやったかったのに父親にだめと言われ、20代からパラを始めたのだそうです。色々な大会に参加して、2001年からフランスのナショナルチームに入ります。アクロバットでも有名で、20分位の短い時間でアドレナリンをいっぱい出しながら飛ぶのが楽しいそうです。逆に、クロスカントリーのように長い時間をかけて飛ぶのも大好きとのこと。日本には、1週間くらい滞在していて、岩屋、獅子吼、新治こまちの各エリアを飛んできたとのこと。「日本のエリ

アは地形がおもしろい。でも、ちょっと天気が悪いね。」と言っていました。

いよいよテイクオフへ上がり、ブリーフィング。今日のタスクは[T.O→足尾山頂→加波山→T.O→燕山→T.O→加波山→ハングライダーランディング場]で、タスク距離は22.4kmでした。この北風が少しでも東に振れば、リッジを取りながらタスクをこなせるだろう、という半谷さんの判断のもと決まったのですが…。

なかなか風が良くならない。選手達はそれぞれテイクオフで暇つぶし。飛びについて語る人、それぞれのエリアについて語る人、寝てしまう人、エロ話に花を咲かせる人、などなど。

結局、この日は全選手がテイクオフしたが、キャンセルとなっていました。

■大会2日目(10月7日)

今日も朝から快晴!! そして北風強い!! 本当にどうして?と言いたくなるくらいコンディションが良くない。しかーし!今日は昨日とは違いました。12時過ぎから風向きが良くなり、ゲートオープンです。今日のタスクは[T.O→足尾山頂→加波山→T.O→燕山→T.O→加波山→猿公園→ハングライダーランディング場]の31.8km。「今日成立してくれないと…」と半谷さんがこっそりつぶやいていました。確かに天気予報では、明日から下り坂。日本選手権成立に必要な



海外の選手たち。左から2人目がグregoryさん。5人目がオープン3位のキムさん。



パイロットブリーフィング。今日はどこまで……?



実はエロ話に花を咲かせています。

な2本をクリアするためには、今日成立しないと厳しい。しかし、ふたを開けてみれば、10人も選手がゴールする結果に。もちろん成立です！

トップはダントツの速さで2位に14分もの差をつけた辻選手。2位には只野選手。そして、女性では神山選手が総合で5位につけていました。今日のコンディションは決して容易なものではありませんでした。シンクが強く、タイミングを読むのが難しかった、と辻選手が話してくれました。

■大会3日目(10月8日)

天気予報では今日から明日にかけて下り坂。実際、朝から高層雲が張ってきて、次第に日射もなくなってきてしまいました。早めにテイクオフに上がったけれど、すでに日射は期待できません。そのせいもあって、今日のタスクのスタートパイロンは、足尾山頂より少し高度が低いNASAのハンググライダーテイクオフポイントに設定されることに。[T.O→ハンググライダーT.O→加波山→T.O→燕山→T.O→加波山→ハンググライダーランディング場]の22.4km。

10時にゲートを開けたのですが、思ったよりも日射がなくなるのが早く、キャンセルとなってしまいました。少しのリフトに数十機がガーグルを作っている絵は「すごい」の一言でした。

■大会4日目(10月9日)

朝から雨。キャンセル。

■大会5日目(10月10日)

やってまいりました！晴れの特異日!!

日選の成立なるか?? 半谷さんもやや緊張したような面持ち。そして空を見上げると…。雲が!! どうしよう!

雲が空を覆っている中、ブリーフィング開始。今日のタスクは[T.O→ハンググライダーランチャー台→加波山→T.O→加波山→T.O→加波山→モーターパラグライダーランディング場]の22.8km。昼過ぎから雲がとれるとの予報を信じて、テイクオフでウェイティング。

結果、昼過ぎから晴れて一気にコンディションがよくなり、69人中、47人もの人がゴールすることに！ トップはただ一人1時間を切るタイムでゴールした川地選手。総合成績では、辻選手が只野選手の追い上げをかわし、日本選手権者となりました。

ワールドカップ(PWC)グラナダ戦優勝をはじめ調子のいい辻選手。表彰台から降りてきて「ありがとうございました」という日に焼けた顔は、「満足している」とか「ほっとしている」とかいう安易な言葉では言い表せない、勝者の顔でした。女子では、水沼選手が優勝を勝ち取りました。「今日は朝から飛びたくて飛びたくて。昼過ぎからコンディションが良くなって、飛べてすごく楽しかったです。おまけに1位にもなれて、今日は最高です！」と満面の笑みで語ってくれました。水沼選手はすごく小柄で、素敵な女性でした。

閉会式が終わり、選手達が帰っていく時はいつも寂しさでいっぱいです。でも、これは束の間の別れ。また来年、次は山形県しらたかエリアの空で激

戦が繰り上げられることを期待しています！

ともあれ、パラグライディング日本選手権、成立おめでとう!!

選手の皆さん、役員の皆さん、どうもお疲れ様でした。

■大会成績

[総合]

1位	辻 強	長野県	1781点
2位	只野正一郎	兵庫県	1725点
3位	Kim Jim-Oh	韓国	1679点
4位	高木 弘志	愛媛県	1634点
5位	Yeo Wang-Dong	韓国	1625点
6位	水沼 典子	栃木県	1579点

[女子]

1位	水沼 典子	栃木県	1579点
2位	田中美由喜	東京都	1510点
3位	神山 和子	茨城県	1502点



喜びのトップ3。左から只野、辻、高木各選手。



入賞を果たした選手たち。左端が関口選手。(撮影：広川巧)

2000年補助動力付パラグライディング日本選手権



慎重にターゲットを狙う。(撮影：広川巧)

10月21日・22日の2日間、富山県黒部市の黒部川河川敷芝公園で、4回目のJHF補助動力付パラグライディング日本選手権を開催。土・日曜だけの競技だったが、コンディションに恵まれ23選手が熱戦を繰り広げた。初日3本、2日目2本、計5本のフライトが成立した。4本目が終わった時点の首位は岩田幸雄。2位の関口伸夫と村田福司に900点の差をつけ、勝利をつかむかと思えたが、最後のデュレーションで逆転を許すことに。みごとに粘りで5本目トップの関口が、元チャンピオンの村田をおさえて日本一の座を勝ち取った。

関口は、20年以上前にハンググライダーで飛び始め、その後、沖縄でパラグライディングを楽しむうち、モーターパラに出会った。3年ほど前から大会に参加している。「日本選手権の前にけっこう練習する

機会があったんで勝てたかな。田中栄一に弟子入りして一から練習した、その成果が出た。ハングやってたんで、サーマルを見つけたのは得意。最後のデュレーション競技で、いいサーマルを拾って、村田さんが降りたのを見届けてから、ニコニコしながらランディングしたんだ。降りてすぐに突風が吹いて、危なかった！ 2〜3分遅かったら降りられなかったよ。」(敬称略)

■上位成績

1位	関口 伸夫	東京都	15800点
2位	村田 福司	埼玉県	15500点
3位	岩田 幸雄	千葉県	14900点
4位	瀬戸 和夫	富山県	14100点
5位	佐々木克夫	宮城県	13600点
6位	川端 隆明	石川県	13200点
7位	中根資農夫	茨城県	12900点
8位	佐藤 良雄	宮城県	12400点

県連だより



瀬戸大橋をのぞむ王子ガ岳エリア。

一年中グッドコンディション！ 岡山県ハンググライディング連盟

■「はれのくに岡山」のスカイスポーツ

「はれのくに岡山」。これは岡山県の観光キャッチフレーズです。いつも天気がよくて気持ちの良い岡山県へ是非おいでください、というものです。このキャッチフレーズのとおり、岡山県は全国でも晴れの日が多い県のひとつで、スカイスポーツをこよなく愛する私たちにとっても、一年を通じてグッドなフライトコンディションが期待できる素晴らしい県であるといえます。気候は温暖で雨は少なく、冬もそれほど寒くはありません。ただ夏場は、瀬戸の花嫁の歌詞にあるように「瀬戸の夕風」といって、日没近くに風がぴたと止まってしまうとても暑い時間帯があります。

岡山県内のフライヤー人口は、パラ・ハング合わせて400名程度です。またフライトエリアは全県に広く分散しており、地域的には次の3つに分類できます。

(1)瀬戸内沿岸のエリア

瀬戸内海沿岸の海岸に近い山にテイクオフポイントを持つエリアです。高度差は100～200m程度でそれほど高くはありませんが、安定した海風のリッジソアリングが主体となるため、のんびりしたフライトが楽しめます。冬も雪がほとんど降らないため、フライト確率はとても高くなっています。

(2)吉備高原のエリア

瀬戸内沿岸の平野部から少し内陸に入ると、なだらかな山並みが続く吉備高原があります。山の高さは400m弱くらいで高度差200～400mくらいのエリアが点在しています。高度差はそれほどではありませんが、春や秋のサーマルシーズンにはびっく

りするくらいのビッグフライトが楽しめることがあります。

(3)中国山地のエリア

吉備高原からさらに北へ行くと、山陽と山陰を隔てる中国山地がそびえています。中国山地には1000mを超える山々が連なり、本格的な山飛びやクロスカントリーフライトが楽しめるエリアがあります。ただ残念なことに、中国山地は積雪量も多く、冬場はフライトできないことがあります。

■岡山県ハンググライディング連盟の活動

岡山県ハンググライディング連盟(略称:OHF 理事長:三宅利夫)は1993年に設立され、1999年度の県連登録者は154名、理事・監事をあわせて8名の役員で運営を行っています。ここ数年フライヤー人口が伸び悩んでいることや、県内の活動エリアや所属クラブの異なるフライヤー同士の交流が少ないことなどを改善していくために、「県内のフライヤーの親睦と交流を深めること」「一般の方々のスカイスポーツへの関心を少しでも高めてフライヤーの人口を増やして行くこと」を活動の中心に据えて、県連登録者の方々への情報提供の強化、フライヤーが楽しめ役に立つイベントの実施、などを試行してきました。ここ2年間では以下のような活動を行っています。

- ・スカイスポーツ写真展
- ・県連主催パラグライダー大会
(北房高原スカイパーク)
- ・助教員講習検定会
- ・岡山県フライトフェスティバル
(大佐山フライトエリア)
- ・スカイスポーツ救急法講習会(予定)

・日本選手権予選会(予定)

特に、2000年10月に実施した岡山県フライトフェスティバルは、これまでの県連主催の大会がどちらかといえば競技指向であったのに対して、県内で活動するフライヤーの交流と親睦を目的として、お祭り感覚で実施したイベントです。タスクは次の2種目で、パイロットだけでなく練習生も参加できるようにしました。

(1)スーパーコスプレフライト

イカロスカップに対抗した仮装フライトです。ウルトラマンやサンタクロース、魔女や一反木綿などが空を飛びました。中には何に仮装したのかわからないようなフライトもありましたが、フェスティバル参加者による審査投票の結果、優勝はなんと空飛ぶバスでした。

(2)花咲爆弾フライト

ターゲットへの爆弾落としてです。ただし爆弾はコスモスの種。よきアウトドアビープルであるフライヤーとして、地球環境のために大佐山のランディング場をコスモスの花でいっぱいにしようという壮大な試みです。残念ながら全員フライトできず、競技は不成立に終わりましたが、蒔かれた種は来年の秋にきれいな花を咲かせてくれることと思います。

今回のイベントは、県連役員だけでなく県内のスクール・クラブの方々にもボランティアとして協力していただき、実現することができたものです。来年以降も県内各エリアの持ち回りで実施していきたいと考えています。

このように、OHFではフライヤーが楽しく安全に活動できるような企画やイベントを今後も実施していく予定です。県外の皆さんも是非「はれのくに岡山」のすばらしいエリアに飛びにきてください。きっとビッグなフライトが楽しめるはずですよ。

■岡山県ハンググライディング連盟への問い合わせは県連事務局まで
TEL.0867-98-3400(NCおさ内)

記:飯田 修



スーパーコスプレフライト優勝「空飛ぶバス」。



岡山県フライトフェスティバル参加者たち。

県連ニュース

■茨城県ハング・パラグライディング連盟 [21世紀最初の大会のお知らせ]

あけましておめでとうございます。

茨城県連では21世紀最初のハンググライディング日本選手権を茨城県八郷町板敷山エリアにて開催します。開催期間は2001年3月18日(日)～3月24日(土)です。この大会はFAIカテゴリー2の公認を予定していますので、参加予定の選手はスポーティングライセンスの取得を忘れずに！

県連事務局からお願い：県連事務局とJHFと両方から2通JHFレポートが送られてきている方は、県連事務局まで連絡してください。県連の経費を削減できますので是非ご協力をお願いします。

FAX.0299-44-1346

E-mail haku@pop16.odn.ne.jp [記:大沢豊]

■東京都ハング・パラグライディング連盟 [県連主催行事の報告]

◇10月28日・29日に茨城県Cooエリアで開催予定だった都大会は、参加希望者が少ないため中止となりました。その原因、今後の対処は理事会で検討中です。

◇11月12日に世田谷区の多摩川遊園で実施する予定だったPG体験会も、参加希望者が極めて少なかった為、中止となりました。これは、今まで一般告知に利用していた新聞紙面レジャー欄が、他の記事との競合いで使えなかったためと思われます。

[記:宮川一郎]

■兵庫県ハング・パラグライディング連盟 [スカイフェスティバルの報告]

10月21日・22日と兵庫県ハチ高原にて第3回兵庫県スカイフェスティバルが開催され、登録クラブメンバー約250名が参加し、助教員検定会に前夜祭、ターゲット大会と、にぎやかな2日間を過ごすことができました。今回、加藤さん、只野さん、川地さんらの若手PWCメンバーの参加に加え、何よりも絶好とは言えないまでも参加者全員が紅葉の中無事にフライトでき、大成功だったと言えると思います。この場をお借りして協賛メーカー及び、ご協力いただいた皆さんへ、ありがとうございますと言いたいと思います。

[記:西谷 尚]

■宮崎県ハング・パラグライディング連盟 [宮崎県の3大会の報告]

◇第6回第2高畑山ハンググライダー大会
開催日:2000年11月5日

開催場所:宮崎県串間市第2高畑山

1位 郡山 慎一 鹿児島県国分市
2位 高瀬 博 宮崎県延岡市
3位 須田 晃功 宮崎県延岡市
4位 清水 晴樹 宮崎県串間市
5位 和田 昌弘 宮崎県綾町

◇鏡山クロスカントリーカーニバル
(XC技能レベル対象)

開催日:2000年10月14日・15日

開催場所:宮崎県川南町上面木山エリア

1位 鶴丸 敬明 佐賀県久保田町
1位 門田 要 愛媛県松山市
3位 富高 敏雄 宮崎県延岡市

九州山飛びクラブ主催で九州初のバラによるクロカンを目的としたお祭り大会に、九州全県と四国から腕に覚えがある強豪が参加した。あいにく鏡山は風向が悪く、川南のエリアに移動し渋いコンディションの中、全員数回のフライトをこなし、盛んに記録に挑戦していただきました。公民館でのパーティーは、スタッフの手作りの料理を囲んで夜遅くまで楽しいひとときを過ごしました。2日目は、初日より悪いコンディションの為、クロカンを楽しむという目的を大事にし、早めの解散を決め帰路のエリアでのフライトを楽しんでいただきました。今回の手作り企画の実施にあたり、川南の尾鈴クラブ・北九州の空豆クラブの方々には、スタッフを無償でご協力いただき、事故もなく終えることができました。紙上を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。

[記:九州山飛びクラブ 那須一男]

◇第15回都城市金御岳杯

南九州ハンググライダー大会

開催日:2000年11月19日

開催場所:宮崎県都城市金御岳

[アウト&リターン]

1位 中野 忠志 鹿児島県種子島
2位 楠田 幸稔 熊本県
3位 須田 晃功 宮崎県延岡市
[ターゲット]
1位 西本 浩美 熊本県熊本市

2位 横山 勢也 鹿児島大学
3位 佐々木良佑 第一工大学
[金御岳賞]

野崎 健一 大分県大分市

[記:金丸直美]

■鹿児島県ハング・パラグライディング連盟 [スカイフェスタよしまつの報告]

今年で7回目となるスカイフェスタ「よしまつ」が10月28日・29日に鹿児島県吉松町で行われました。初日は残念ながら、季節はずれの台風の影響で、大会・各種イベントは中止となってしまいました。しかし、大会2日目は雨も上がり、霧も晴れ、競技が開始されました。タスクはよしまつ方式のゴールレース(ゴールがメインランディング以外に4ヶ所設けてあり、早く遠いランディングにゴールした人が優位)。初めは、渋い条件の中ほとんどの人がぶっ飛んでいましたが、昼前から晴れてきて、サーマルが出始めました。しかし、遠くまで行けるほど良い条件ではなく、2番目に近いランディングに最初に降ろした土橋選手が優勝を飾りました。また、メイン会場では、パラグライダーの体験や、熱気球の体験、乗馬の体験など、各種の体験会が行われ、行列のできるころもありました。フリーマーケットやコンサートなどのイベントも行われ、1300人の人出でにぎわいました。全国フライヤーの皆様、来年は是非吉松にお越しください。

[記:黒木悦子]



たくさんの人で賑わったスカイフェスタ。



よしまつ方式ゴールレースの入賞者たち。

カレンダー

陽は開催地、陰は連絡先です。

1月	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
	1 元旦	2	3	4	5	6	7
	8 成人の日	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				
2月	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12 振替休日	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28				

■第12回丹沢スカイグランプリ(HG)

1月5日～8日 陽神奈川県秦野市横野地区
陰丹沢スカイグランプリ実行委員会 代表
山本 剛 TEL.0465-48-9335

E-mail:yamamoto@ppp.fastnet.ne.jp

■富山気球国体成功記念バルーンレース

1月20日～31日の間の1日 陽富山県～関東
平野 陰実行委員会代表 松田浩壮
TEL.0766-44-7244

■第20回上士幌ウインターバルーン フェスティバル

2月10日～12日 陽北海道士幌町 陰上

士幌町役場 TEL.01564-2-2111

■第25回おぢや風船一揆(熱気球)

2月17日・18日 陽新潟県小千谷市 陰小
千谷市役所観光課 TEL.0258-83-3512

■CIVL(国際ハンググライディング委員会) 定例委員会

2月22日～25日 陽スイスFAI本部

■2001年度ハンググライディング日本 選手権

3月18日～24日 陽茨城県八郷町板敷山エ
リア FAIカテゴリー2大会の予定 参加に
はFAIスポーティングライセンスが必要

委員会の動き

PG競技委員会 委員長 曾我部 真人

世界で行われているPWCや世界選手権大会というものをベースに考えると、2001年はパラグライディング競技の大きな変動の年となりそうです。日本のPG競技をよりよい方向へと考えれば考えるほど、考えがまとまらず委員は頭を悩ませています。基本は、主催者や参加選手の皆さんが、よけいな手間をかけず、よりスムーズな運営で大会を楽しんで欲しいということです。

今の一番の悩みは、ルール改正に伴い、2001年度は、まずルールそのものをしっかり認識していただかなくてはなりません。2000年終了を迎える段階で皆さんへのアナウンスが遅れていること。これは、大会運営に大きな支障を与えることになりかねませんが、主催者・参加選手の皆さんのご理解とご協力をお願いしたいと思います。

また、大会の場面でもっと選手の意見も聞ける態勢を作りたいと思います。

HG競技委員会 委員長 大澤 豊

あけましておめでとうございます。いよいよ新世紀のシーズンが始まりました。今年6月にはスペインで世界選手権も開催されます。参加枠はクラス1が6名+女子枠2名、クラス2が4名です。選手の選考は、クラス1については女子枠も合わせてポイントランキング上位から選考します。クラス2はまだポイントシステムが確立していないので選考大会を開催してゆく予定です。どしどし参加して世界を目指してください。

2001年の新ルールをホームページに掲載しておりますので、よく読んでご理解ください。また、新春第1弾、1月5日～8日開催の第2回丹沢スカイグランプリの結果もホームページに掲載します。

次の大会予定は、2月に開催が予定されるHANGGLIDING関西選手権2001です。ホームページで詳細をご覧ください。

2001年度日本選手権開催地は茨城県八郷町板敷山エリアに決定し、開催日程は2001年3月18日(日)～3月24日(土)です。FAIカテゴリー2の公認を予定していますので、参加予定の選手はFAIスポーツライセンスの取得を忘れずに!

事務局にメールをくだされば競技委員会インフォメーションをお送りします。
HG競技委員会事務局 FAX.0299-44-1346
E-mail:haku@tomato.saino.ne.jp
<http://tomato.saino.ne.jp/~haku/JHF-HG.html>

教習検定委員会 委員長 小野寺久憲

本委員会の最大事業である「教員研修検定会」が、11月14日から18日まで茨城県新治郡で開催され無事終了しました。

全国から29名の方々が受検、新年から新教員が誕生します。教員としてスタート台

に立つことを許された新教員の皆様を応援してあげてください。

JHFとしては初めての教員更新講習会も教員研修検定会と同時に開催されました。この講習会については、その必要性や実施方法、義務付けの可否等、各所でさまざまな論議がなされている最中ですが、全国から30名の教員が参加。大変有意義であったとの評価をいただくとともに、来年度以降も開催せよとの激励をいただきました。

また、JHF理事との意見交換会議が行われました。理事と教員が直接話し合う会議は今回が初めてであり、白熱した論議が交わられました。

◇ご意見、ご提案をお願いします

来年度事業計画と予算の最終案を作成中です。「教員研修検定会」や「教員更新講習会」の実施の可否、開催実施方法などについてご意見、ご提案をお願いいたします。特に「教員更新講習会」については各都道府県連盟や教員の皆様の間で、いろいろな意見が噴出しているようですが、具体的なご提案が寄せられたのは、ごくわずかです。ぜひ多数のご意見をお早めにお寄せください。(ご意見はJHF事務局まで)

補助動力委員会 委員長 山崎 勇光

10月21日・22日の2日間、富山県黒部扇状地にて行われた補助動力付パラグライディング日本選手権は、天気にも恵まれ無事タスクをこなし成功することができました。黒部市、入善町の皆様、大会を支えていただいた関係者の皆様、富山県連盟、そしてスタッフの皆様は紙面を借りてあつくお礼申し上げます。

当委員会では独自に問題集を作り、学科検定がいつでもどこでもスムーズに行えるように考えてきましたが、さらに補助動力付パラグライダーのメンバーの増強を考え、地区ごとに委員を派遣してフライヤーの育成に働きかけるよう準備中です。ご意見を当委員会(JHF事務局)までいただければ大変嬉しく思います。

当委員会にもようやく女性委員が登場しました。宇都宮在住の村上優子さんです。明るく元気で、そして厳しい彼女の存在は、少し年老いた委員会のメンバーに新鮮な息吹と頑張りを与えてくれることでしょう。

制度委員会 委員長 小林 秀彰

◇お願い

制度委員会は前回もお知らせしたとおり、現在2名で運営しています。本委員会の任務は、JHFの制度という重要な問題について、理事会から諮問を受け、それに対する委員会意見、または案を答申することが主なのですが、あまりに少なすぎる人員であるため、委員会活動に支障をきたしています。引き続き委員を募集していますので、本委員会の重要性をご理解いただき、会員の皆様から一肌脱ごうという方の応募をお待ち

しています。応募方法はJHF事務局にお問い合わせください。

◇委員会の動き

わずか2名の委員会では、理事会からの諮問事項であるJHF公認規程について継続審議中です。12月中には答申案を理事会に提出できるよう頑張っています。

安全性委員会 委員長 西本 一弘

現在、いざという時の人工呼吸方法は、「頭部後屈おとがい拳上法」での指導が主ですが、頸椎を損傷した場合は、上記の方法では返って危険です。そこで、当委員会では「下顎拳上法」の指導・普及を消防庁など関係団体に働きかけています。

機体の型式認定審査は、従来の審査方法を変更しており、ホームページ等の書き換え作業も順次行います。月末までに事務局に申請された書類は、型式審査担当委員により審査され登録します。担当委員に加えて、型式認定の専門委員として岡芳樹氏・矢ヶ崎弘志氏に協力依頼をしました。

事故報告書に関しても現在報告件数が少ない(事故が少なければ良いことですが)状況です。事故状況等を把握するために各都道府県連に事故連絡係(仮称)をお願いしようと考えています。その際は、各都道府県連の協力をよろしくお願いします。

事故調査に関しても、担当委員に加えて事故調査専門委員として泉秀樹氏・幸路尚文氏に協力依頼をしました。

また、無事故パイロット表彰規程の制定を現在検討中です。

JHSC 型式登録機

JHF 安全性委員会(JHSC)において以下の機体が審査を通り登録された。最新登録状況は JHF ホームページの安全性委員会のページをご覧ください。
<http://jhf.skysports.or.jp/>

◆輸入パラグライダー

- ◇2000年9月25日の新規登録・追加
- ◇PI-754 ウインドテック式サイレックスコンペ 27 型
- ◇2000年9月29日の新規登録
- ◇PI-755 MAC 式 TRANCE 24 型
- ◇PI-756 MAC 式 TRANCE 27 型
- ◇PI-757 MAC 式 TRANCE 30 型
- ◇PI-758 MAC 式 EDEN 22 型
- ◇PI-759 MAC 式 EDEN 24 型
- ◇PI-760 MAC 式 EDEN 27 型
- ◇PI-761 MAC 式 EDEN 29 型
- ◇PI-762 MAC 式 DIVA 24 型
- ◇PI-763 MAC 式 DIVA 27 型
- ◇PI-764 MAC 式 DIVA 29 型
- ◇2000年9月30日の新規登録
- ◇PI-765 GIN GLIDERS 式 BOLERO XS 型
- ◇PI-766 GIN GLIDERS 式 BOLERO S 型
- ◇PI-767 GIN GLIDERS 式 BOLERO M 型
- ◇PI-768 GIN GLIDERS 式 BOLERO L 型
- ◇PI-769 GIN GLIDERS 式 BANDIT S 型
- ◇PI-770 GIN GLIDERS 式 BANDIT M 型
- ◇PI-771 GIN GLIDERS 式 BANDIT L 型
- ◇PI-772 GIN GLIDERS 式 BOLERO XL 型
- ◇2000年10月4日の新規登録
- ◇PI-773 SWING 式 CIRUS2-M 型
- ◇2000年11月7日の新規登録
- ◇PI-774 アドバンス式 アルファ 2-24 型
- ◇PI-775 アドバンス式 アルファ 2-27 型
- ◇PI-776 アドバンス式 アルファ 2-30 型
- ◇PI-777 アドバンス式 BiBETA-2 型

JHFの役員選挙について

JHF 選挙管理委員会 委員長 宮野 周三

前号に続き、社団法人を経営する役員が選ばれる過程をお話します。

フライヤーの皆さんも、この選挙にかかわっているの、よく理解し積極的に参加してください。

■役員選挙の流れ

役員選挙は、「選挙公示」→「立候補受付」→「書類審査」→「投票」→「開票」→「当選者確定」という流れで実施します。来年3月のJHF総会での役員選挙に向けて、時間を追って説明しましょう。

1. 選挙公示

2001年の年明け早々に、役員改選に関する案内を公に提示。この「公示日」は規約で投票日のおおむね10週間前とされるので、3月総会の日取りが見通せた段階で、案内を出します。

ここで「立候補締切日」と「立候補者公示日」が明らかになります。正式の公示書類は選挙権を持つ47都道府県連盟(JHF正会員)に直接郵送しますが、同時にJHFの公式ホームページに掲載するので、フライヤーの方もすぐに見ることができます。

2. 立候補締切

立候補の締切日は、だいたい2月の半ばから月末に設定の予定です。JHFの役員である理事または監事に立候補する人は、この日までに所属する都道府県連盟の推薦を受けて定められた書類を提出します。被選挙権(立候補資格)は、選挙公示日にJHFのフライヤー会員として有効であること(今回は日本航空協会のフライヤー登録でも同等)が必要です。また、都道府県連盟の推薦は、立候補の時点で居住する地区連盟で受けてもらいます。

後で説明しますが、JHFの定款で社団法人の理事になれない立場の方が決められているので注意してください(監事にはそのような制限はありません)。

理事の資格要件を満たしていることも都道府県連盟の推薦の判断に必要です。選挙管理委員会では、推薦基準を文書にして各都道府県連盟に配布します。「JHFの経営に携わりたいが、自分が立候補できる立場か

どうか疑問がある」という人は、各都道府県連盟と相談し、検討をしてください。

3. 立候補者公示

立候補締切りの1～2週間後に設定。立候補を受理した役員候補者全員を公に提示します。

立候補締切日から公示日までの間に、郵送される書類の審査などが行います。この時点で、立候補者の人数が理事および監事の定員以下であった場合は、総会時の投票は選挙ではなく信任投票に切替え、その旨も同時に公示します。

今回の選挙から、立候補者の氏名と所属都道府県連盟に加え、顔写真と800字内にまとめた「立候補文」を立候補者公示日にJHFホームページに掲載する予定です。

4. 投票

3月総会の当日に行います。選挙権を持つのは47都道府県連盟(JHF正会員)です。

役員立候補者が確定し立候補者公示を各都道府県連盟に発送してから投票まで、約3週間の余裕を持つことになっています。この間に正会員は各組織会員の意見を集約し、投票日に各都道府県連盟としての意思を表明する1票を投じなければなりません。

一般フライヤーの意見は、この過程で所属する都道府県連盟に伝えることによって、権利行使されることになります。このため選挙管理委員会ではホームページという同時伝達性の高い手段を使うことにしました。

また、今回からは総会に出席できない正会員の投票を不在者投票という形で受けけることになりました。選挙結果は即時集計し、総会の会場で新役員が確定されます。

■JHF理事の資格要件

前号でもお伝えしたように、JHFが社団法人として文部大臣に認可を受けて活動している以上、さまざまな権利とともに義務が生じてきます。

JHF総会機関がJHFの経営の執行を依頼する理事には、それ相応の資質と能力が求められます。「ハング・パラグライディングに対する熱意と情熱を持ち、JHFの目的であ

る、国民のスポーツとして広く普及と振興のために働ける」ことが基本資質です。ただ、それとは別に公益性を保つための禁止事項があります。

厳密には、JHF定款の第13条のうち、第3項に規程されている「JHFの事業に関する営利を目的とする企業の役員」は、理事を務められないというものです。

しかし、この規程の示す範囲が我々のスポーツ社会においてどこからどこまで指すのか、解釈が必要であり、JHFが法人化を働きかけてきた頃からいろいろ検討され、判断が示されてきています。選挙管理委員会でも、それらを受けて過去に以下の判断基準を設けてきました。

＊

「JHFの事業に関する……企業」は、次の範囲の事業と解釈します。

◇ハング・パラグライダーの機体やハーネスの製造または輸入および販売

◇ハング・パラグライディングの教習や施設の管理

◇ハング・パラグライディングの専門誌の発行

「営利を目的とする企業」とは、商法・有限会社法による営利法人と個人事業が該当するものと解釈し、個人事業(法格を持たない事業)については次の通り解釈します。

◇主たる事業収入が上記事業であるもの
なお、臨時雇用生活者(アルバイトなど)や自由業者※は、個人事業とみなしません。

※自由業者とは、個人が報酬、料金または謝金により生計を営む者で、プロ選手、テストパイロット、歩合制外交員や販売員、著述業等をさす。「企業の役員」とは、登記された役員法人格を持たない営利事業の場合、事業主を役員と読み替えます。

＊

選挙管理委員会では、できるだけ選挙にかかわる諸問題を透明化していきたいと考え活動を続けています。公正で開かれた役員選挙を行っていくためにも、フライヤーの皆さん一人一人のご注目をお願いします。



●意見を求む!!

JHFフライヤー会員登録開始を機に、事務局では会員へのサービスをより迅速に行えるよう、また経費を軽減できるよう、フライヤーの個人情報(住所、取得技能証など)をフライヤー会員番号で管理するシステムを作

りました。これで、技能証番号が会員情報管理には不要になり、2000年6月以降発行の技能証には番号を入れていません。しかし「番号がないと不便だ」という意見が、最近多く聞かれるようになりました。そこで、技能証番号を復活させるか否か、多くの意見を聞きJHF理事会で検討することに。あなたのご意見をぜひお寄せください。番号復活に決まれば、番号のない方には番号入り技能証を再発行する予定。

技能証のスクール一括送付についても皆さんの意見を求めています。技能証はフライヤー個人のものという考えから、また、事務局の発送業務のスピードアップをはかる

ため、2000年6月から全技能証を個人発送してきました。しかし「スクール生に直接手渡したい」と、教員からの要望が寄せられ、また、技能証規程のなかで技能証申請を個人が行うことについて明確でない部分があり、「技能証申請を行える者は誰か」という点を明らかにする必要が出てきました。そのため、スクール一括送付をとりあえず復活させ、意見を広く募り、規程見直しの参考にするようになりました。

ご意見は、JHF事務局にファクスまたは電子メールでお送りください。

FAX.03-5840-8312

Eメール jhf@skysports.or.jp

理 事 会 ダ イ ジ ェ ス ト

◆10月24日理事会

2000年10月24日(月)13時30分～18時 場所：JHF事務局会議室 出席：川添喜郎、小林朋子、朝日和博、岩間雅彦、田中美由喜、星野納、松田保子、松永文也各理事、宮川雅博監事 欠席：関谷暢人、横尾和彦、渡邊敏久各理事、坂本三津也監事 議長：朝日和博

■ジャパンリーグ・SPS・XCリーグ(パラグライディング)の登録について審議

PG競技委員会・曾我部委員長が提案の説明のため出席。2001年1月より始まる2001年度ジャパンリーグ登録費にFAIスポーティングライセンス登録費を含めるという案について検討。賛成7、反対0、棄権0で可決。ただし、すでにスポーティングライセンスを持つ人への対応、事務手続き方法については、HG競技委員会と調整の上、次回理事会に提案することを確認。また、SPS・XCリーグの登録費を無料にして事前登録制度を廃止するという案について、賛成7、反対0、棄権0でこれを承認。

■技能証申請料の値下げについて審議

岩間・星野より2001年度予算編成に組み込む技能証申請料の値下げについて提案があったが、減収入がJHFの運営にどのように影響するか不確定であることから「技能証申請料を値下げする方針とする」という案についての審議。賛成5、反対1、棄権1で案を承認。ただし、値下げ額と値下げ時期は継続協議とすることを確認。

■2001年度HG日本選手権開催について審議

2001年ハンググライディング日本選手権を3月18日～24日に板敷エリアで開催したいという立候補が茨城県ハング・パラグライディング連盟よりあり、賛成7、反対0、棄権0で立候補届けのとおり開催することを決定。会計年度では2000年度中の開催となるため、必要な予算を今年度予算の補正予算を組んで確保すること、及び2000年の岩手におけるHG日本選手権並みの金額とする方針を合わせて決定した。

■平成12年度「レジャー航空安全対策調査委員会」委員推薦について

(財)日本航空協会より標記委員会の委員推薦依頼があった。推薦期限が迫っていたため、とりあえず川添の名前が提出されている。川添を委員として推薦することを賛成7、反対0、棄権0で承認。

◆11月15日理事会

2000年11月15日(水)13時30分～21時 場所：法政大学石岡総合体育施設(茨城県石岡市) 出席：川添喜郎、小林朋子、朝日和博、関谷暢人、岩間雅彦、田中美由喜、松田保子、松永文也、横尾和彦各理事、宮川雅博監事 欠席：星野納、渡邊敏久各理事、坂本三津也監事 議長：関谷暢人

＊17時～19時は教員研修検定会・教員更新講習会の参加者との懇談会に出席し、20時から協議継続。

■2001年度事業方針案について審議

川添より「2001年度(社)日本ハンググライディング連盟事業方針」と「事業の重点と具体的施策」

の草案が出された。原案に追加・修正することを条件に、賛成7、反対0、棄権1で原案を承認。12月理事会に事業方針案を提出することを確認。

■2000年度セフティセミナー開催について審議

田中から提出されたセフティセミナー(DHVから講師を招く)実施案について審議。提出された文書の中の一部不正確な表現と本提案には関係ない説明を削除することを条件に採決。賛成8、反対0、棄権0で原案を承認した。

■技能証のスクール一括送付の復活について審議

制度(技能証規程)の問題点を明確にしてから技能証のスクール一括送付を復活させることについて検討。制度の見直しは後に回し希望するスクールへは一括送付を復活させることを、賛成8、反対0、棄権0で承認。規程整備期限を2001年8月末日とし、アンケート調査を行い多角的に意見を求めるという案が出され、賛成7、反対1、棄権0で付帯決議として承認。アンケート方法は、正会員・教員へ郵送、JHFレポートとホームページに掲載することを確認。

■技能証番号復活について

アンケートをとり広く意見を求める、という意見が出され全員で了解した。アンケートをとる方法として、正会員・教員へ郵送、JHFレポートとホームページに掲載すること、締め切りは1月末日とすることを確認。この件を継続審議事項とし、アンケートの結果を参考にすることを確認した。

理 事 活 動 報 告

JHF理事は、それぞれが担当する事業が滞りなく進行するよう、さまざまな仕事をしています。

9月下旬から11月下旬までの活動内容を各理事に報告してもらおう。

●会長 川添 喜郎

9月29日：横尾事務局局長退職。局員全員でささやかなお別れ会を行いました。10月4日～6日：社会保険事務所、飯田橋職安で諸手続き。13日：理事会準備。文部省へ調査書類の提出。16日：長谷川東京都連理事長来局、応談。20日・21日：富山県黒部市へ。第4回補助動力付PG日本選手権の開会式に出席。黒部市、入善町のご協力、富山県連、地元の皆さん、補助動力委員会の熱意で大会は大成功。本当にご苦労様でした。24日：理事会。27日：日本航空協会杉山部長、松田課長来局。航空団体調査に応じました。夜、業界主催のPG懇談会に小林副会長と参加。スクール業界の現況、JHFへの提案や貴重なご意見を拝聴。30日：JASPAの「レジャー航空安全対策委員会」に出席。レジャー航空に関するイベントの安全対策に関する調査事項について討議。11月9日：2001年度JHF事業方針(草案)を仕上げる。10日：体力づくり国民会議(桜内良雄議長)に参加、省庁再編による管轄・予算の説明、サッカーくじ補助金の今後等の説明を受け、国に対する決議文を採択しました。14日～18日：茨城県石岡市・八郷町へ。教員研修検定会と教員更新講習会の開会式・閉会式に出席。またスカイスports教育論を講義。参加者と直に話ができて、教習検定委員の方々とじっくり意見交換もでき、とても有意義でした。4泊5日の会期以前より、小野寺委員長はじめ委員の皆さん、本当にご苦労様でした。15日：石岡市で理事会。教員検定、更新講習会参加の皆さんと理事との意見交換会があり、多くの有意義な意見をいただきました。

●副会長 小林 朋子

週3日事務局で仕事をしています。教員更新講習会と教員研修検定会の準備や、多くの問い合わせ／12月末日で有効期限を迎える教員・助教員への更新通知／来年1月から新規登録の始まるHG・PGのポイント登録の準備／その他来年度予算編成に必要な資料作成など、事務局はこの時期、目が回るほど忙しいです。

技能証は申請者へ送っていましたが、希望するスクールまたは教員へは一括して送ることになりました。仕分け作業に時間がかかりますので、相当工夫をしなければ発行が遅れます。頼もしいスタッフと対応策を考えています。

●常任理事 朝日 和博

いよいよ2001年度予算の編成作業が忙しくなってきました。フライヤー会員登録制度が順調に進んでいるお陰で、危機的な財務体質から抜け出すことができるようになりました。しかし、技能証申請が相変わらず縮小してきています。新しい人が減少していつにいつということとは、将来に不安があることになります。貴重な財源を有効に活用して、望ましい姿になれるよう努力しなければならぬと考えています。皆様のお力添えをお願い申し上げます。

●理事 岩間 雅彦

11月14日～18日にJHF教員研修検定会が、同14日～16日に同教員更新講習会が、茨城県石岡市の法大総合グラウンド施設及びエアパークCoo、足尾山NASA講習会場などのエリアを使用して開催されました。教員検定会は約30名、教員更新講習会も約

30名の参加者がありました。15日にはJHF理事会が現地に開催され、同日の夕刻には受検者、受講者の方たちとの懇談会が行われました。教員更新講習会は開催自体が初めての試みですが、教員検定会についても今年度はビデオの事前配付など色々と新しい試みがなされました。そのために、教習検定委員の方たちには開催中はもちろんのこと、準備作業においても大変な努力をしていただきました。今年の成果を来年度の検定会、講習会に生かして行きたいと思っています。

●理事 田中 美由喜

11月14日～18日開催の、JHF教員研修検定会のサポートをいたしました。

今年は約30名の参加者があり、5日間という日程の中実技フライトも充分行うことができ、充実した研修・検定内容だったと思います。また、教員の更新研修会も行われ、参加義務がないにもかかわらず、30名の教員が全国から集まり研修をうけました。参加者全員と理事との懇談会も行うことができ、意見交換が活発にされました。JHFのこれからの活動を活発に行うためにも、今回の試みはこれからも必要と思いました。

●理事 松田 保子

10月31日に広報出版局会議。来年度の事業としてどんなことをすべきか、JHFレポートの内容はどうか、JHFホームページを飛んでいない人にもフライヤーにも、もっと活用してもらうためにはどうしたらよいか、話し合いました。いつものことながら、情報を正確かつ迅速に伝えることの重要性を一同再確認。

@sky

空の情報いろいろありのページ、その名もアット・スカイ。
 いつでも心は空の彼方というあなた、必読！
 もちろん寄稿も大歓迎。
 「お題はなあに？」や「大会報告」、エリア紹介、フライト自慢、
 JHFへの意見など、どしどし送ってください。
 koho@jhf.skysports.or.jp FAX.03-5840-8312

教員研修検定会・更新講習会が無事終了。 次回に向けてあなたの意見を。

2000年度教員研修検定会が無事終了した。11月14日から18日まで、茨城県石岡市・新治郡の会場で、29名の助教員が研修に参加し、飛行実技(模範飛行)・教習実技・学科の各検定を受けた。検定合格者は、2001年からはじめから教員として活動を始める予定。新教員の面々にぜひエールを。(検定合格者

は次号に掲載。)

今回は新しい試みとして、JHFでは初めての教員更新講習会もあわせて開催。主に技能証の更新時期を迎える教員を対象に行ったもので、参加は自由で、更新の義務ではなかったが、全国から30名の教員が参加し、熱心に新しい知識を吸収した。

参加者は「有意義な体験だった」と口を揃えていたが、「5日間連続の検定では参加できない人もいる」「更新講習会への参加は将来も義務付けるべきではない」「会場を一ヶ所ではなく、いくつかのエリアで開催してほしい」等の意見も聞かれた。

教習検定委員会では、来年度の研修検定会や講習会に向けて計画を練り始めており、よりよい形で実施するために、フライヤーの意見を求めている。

ご意見はJHF事務局までファクスか電子メールで。FAX:03-5840-8312 Eメール:jhf@skysports.or.jp

パラグライダー 今昔物語

第五話 CORRADO

栗山 公秀

懐かしのあの機体、忘れられないこの機体、 日本のパラグライディング史に名を残す翼、再登場。

2000年も残すところあとわずかとなりました。皆さんにとってどんな年でしたか。初めてのフライト、初ソアリング、コンペ初参戦等、いろんな人がいるでしょう。

コンペでは世界の舞台で日本人が大活躍した年でした。

ここで注目したいのが僕の地元エリアのインストラクター、水沼典子嬢。3月、ブラジルでのパンアメリカンカップで堂々の女子1位、更に日本選手権でも女子1位と、今年の活躍は目を見張るものがありました。

頭脳明晰、冷静沉着、しかも美人(加えてアルコールに減法強い)。僕と同じ日にパラを始めた彼女、2001年もきっと活躍してくれることでしょう。期待しているぞ。

今回紹介するのは1990年頃お目見えしたオーストリアのプロデザインのファーストグライダーCorrado(コラード)。初級機としてだけでなく、初心者からサンデーフライヤーまでを対象にした、当時としては進んだコンセプトの機体でした。一見したところ何てことない翼形ですが、これがなかなか凝った機体なんです。

アスペクト比を抑えて緩やかに翼端を絞った翼形は、穏やかな印象を受けます。しかしよく見るとエアインテークが何とふたつついているじゃありませんか。通常のエアインテークと平行してもう一列、翼下面

中央部にエアインテークが存在します。

ライズアップ時は翼下面は正面を向くわけで、ここから空気が効果的に入るでしょう。タッキングを喰らってエアインテークが潰れても、素早いリカバリーが期待できそうです。

もちろん翼下面のしかもリーディングエッジ寄りにこーんな大穴があいてたんじゃ剛性不足で泣くでしょうから2ndインテークはメッシュでばっちり補強済みです。さらにエアインテークは翼端のみメッシュクローズ化されています。たしか2本ライザーでした。

現在の目で見れば、適切なエアインテークの位置と大きさで設計すれば2個も必要無いと言えるだろうし、翼端のメッシュクローズにしたって翼端の重量増につながるわけで、テクノロジーが確立されてなかった当時の過渡的な設計と片付けてしまえばそれまででしょう。しかし!一つ忘れてはいけないのが、このグライダーが初心者をも対象にした機体であるということ。

この頃、性能向上を目指してあらゆる手法が試みられました(この時期のパラグライダーの進化をカンブリア大爆発に例えたのはジェネスの松永氏だが、的を得た表現だと思う)。パテンを入れたもの(アスリートやジェネー)、エアインテークがなくなっちゃうもの(トリエールやサフィー)。それら



は純粹に性能向上のみを目指したもので、代償として複雑な取り扱いやシビアな操作をパイロットに要求しました。

コラードは違います。それはコラードがあくまで初級機であるということに尽きます。2ndインテークは安全のためのデバイスなのです。

何が言いたいのかというとつまり「こんなに凝ったファーストグライダーがあったか」ということ。この辺にプロデザインの物作りのこだわりが感じられるんですね。

上級機AirBowが(当時としては)普通のメッシュクローズエアインテークであったことがそれを裏付けています。

各メーカーとも似たようなデザインに落ち着いてしまった現在のファーストグライダーですが、昔はこんな個性的なファーストグライダーがあったのです。

栗山公秀(くりやままさひで)

初フライトは1987年7月、それ以来パラにはまる。コンペにも参加していたが今は月1~2日程度のマンスリーフライヤー(とほほ)。ホームエリアはスカイパーク宇都宮。現在二児の父。

@sky

● 大会報告 ●

2000デサントバードマンカップ 獅子吼大会

2000年10月13日～15日

石川県石川郡鶴来町・八幡町 獅子吼高原

[総合]

1位	波多野康雄	兵庫県	1756.2点
2位	平林 和行	茨城県	1633.0点
3位	高橋 陽一	群馬県	1623.7点
4位	岡田 伸弘	静岡県	1543.5点
6位	山本 貢	茨城県	1401.5点

[女子]

1位	岡田 明子	静岡県	1283.2点
2位	福田 佳代	茨城県	568.1点
3位	高橋恵理子	群馬県	389.2点

★連日、雲が多く日射も弱いものであったが、約8km幅の山脈沿いには安定したリフト帯が発生し、これを利用したタスクが組まれた。初日は、デサント2連覇の波多野選手が安定した飛びを見せ、ファーストゴール。続いて高橋、氏家選手らがほぼ同時にゴール。その後、岡田選手の計4選手がフィニッシュを決めた。2日目はフォローによるキャンセル。最終日、ゲートオープン後コンディションが低下し、牽制ムードとなる中、初日ノーゴールに終わった平林選手がコンディションの好転を読み、果敢にテイクオフ。ファーストゴールを飾る。初日トップの波多野選手はやや遅れながらも無事ゴールを決め、大会3連覇を飾った。女子の部では、岡田選手が連勝、総合8位の強さを見せた。

[記:金子外幸]

ジャパンリーグ・スキージャンプ勝山

2000年10月14日・15日

福井県勝山市 スキージャンプ勝山

[総合]

1位	扇沢 郁	富山県	1000点
2位	川口 竜太	静岡県	934点
3位	加藤 豪	兵庫県	916点
4位	薮 哲行	兵庫県	914点
5位	岩山 朋晴	静岡県	822点
6位	水沼 典子	栃木県	819点

★初日。午前中はエリア全体良い条件。サーマルも豊富で、ビッグタスクが期待できた。ゲートオープン後、前半は良かったが次第に高層雲が張り出してきて、レースは厳しいものに。渋い中、ジリジリと駒を進め、少しでも前に出せたものがゴールまで届いたといった感じだった。2日目は雲が厚く、ダミーも一人として上げることができず、12時にキャンセルが発表され、大会は幕を閉じた。

[記:堀 幸雄]

2000しらたか町長杯 しらたかパラグライダーカップ

2000年10月21日・22日

山形県 しらたかスカイパーク

[総合]

1位	扇沢 郁	富山県	1000点
2位	大野 健治	山形県	957点
3位	山下 慎吾	埼玉県	939点
4位	西ヶ谷一志	埼玉県	899点
5位	宇治山 寛	富山県	809点

[女子]

1位	水沼 典子	栃木県	773点
2位	神山 和子	茨城県	367点
2位	岡部 奈奈	山形県	367点
2位	田中美由喜	東京都	367点

★初日は、少々風が強かったものの、天気にも恵まれグッドコンディションでした。ゴール者はいなかったのですが、多くの選手がミニマムをクリアして見事成立。2日目は、朝のうちはよかったのですが、時間とともに渋くなったり、突然に、一瞬だけ良くなったりと不安定。結果、粘った人が上位になったのですが、競技としては不成立。大会としては成立しました。しらたかの大会は4年連続で成立!成功確立100%!今年は、パーティも焼肉バイキングレストランを借り切ってやりました。大変な盛り上がりを見せていました。来年は日本選手権inしらたかをよろしくお願いします。[記:岡部奈奈]

第7回大鹿PGフェスタ2000 (SPSクラス)

2000年10月21日・22日

長野県大鹿PGエリア

[総合]

1位	真鍋 務	大阪府	1000点
2位	鈴木 信吾	愛知県	930点
3位	上田 美和	静岡県	831点
4位	西崎 恭子	静岡県	420点
5位	角田 尚久	三重県	332点
5位	二谷 義則	岐阜県	332点

★今回、SPSクラスは参加者25名と少なめではあったが、隣接する鳥倉エリアにて、エキスパート・オープンのローカル大会を同時開催していた為、合わせて53機のパラが広い空域を舞った。初日は明け方近くまで雨が残った影響もあり、条件に恵まれず不成立に終わったが、2日目はまずまずのコンディションに恵まれ、なんとか大会は成立した。しかし、ゴール者が少なかったことにパイロンの設定の反省点も残る。

[記:小嶋 洋]

米・こめカップ2000

2000年10月28日・29日

福島県熱塩加納村 エアパーク三ノ倉高原

[エキスパート]

1位	野呂 哲也	茨城県	900点
2位	中田 孝宏	茨城県	831点
3位	竹石 正一	埼玉県	828点
4位	入澤 幸夫	群馬県	816点
5位	柏倉 恵美	山形県	808点
6位	岩間 保之	福島県	782点

[オープン]

1位	舩井 千穂	東京都	1363点
2位	大槻 賢治	三重県	1189点
3位	根岸 真之	福島県	1105点

★オープンクラス13名、エキスパートクラス46名で行われました。初日は高気圧に覆われ、晴れの予報だったのですが、上層に雲が張り出し、渋い条件となってしまいました。そんな中、エキスパートクラスはセットタイム60分・シークレットパイロン4ヶ所と、厳しいタスクだったのですが、50分以上をクリアした選手が数人いました。今年は大豊作で、商品のおいしいお米が参加者全員に配られ、紅葉の三ノ倉を楽しんでいたかったです。[記:昆野克巳]

2000阿波の国四国三郎 パラグライダー大会

2000年11月3日～5日

徳島県美馬郡美馬町四国ハンググライディングサイト周辺

★初日、厚い雲に覆われて競技が出来ず、キャンセル。フリーフライトとなった。2日目は、朝から晴れているものの湿度が高く、逆転層も低い。競技を開始したが上昇するのはテイクオフポイント周辺だけで、距離が伸ばせず不成立となった。そして3日目もまた、昼まで厚い雲に覆われてウェィティング。午後になり天気は回復したものの、20kmのタスクをこなせる上昇はなく、結局この日も不成立となり、大会は終了した。

[記:高木弘志]

2000年度全国学生 パラグライダー選手権

2000年11月3日～5日

山形県南陽市十分一山 南陽スカイパーク

★うーん、ザンネン!! 今年のパラ学生選手権は天候不良のため、不成立に終わってしまいました。オープンクラスは2日とも競技ができ、筑波大の古田選手が1位に輝きました。参加選手は63名、北は弘前大学から南は熊本大学、さらにはお隣の国、韓国からも参加があり、大変にぎやかな大会となりました。

そうそう、学生チャンプを決めるため、3月頃にどこかで学生大会を開く予定です。学生フライヤーのみなさん!!また、その時に会いましょうね! [記:藤木美穂]



学生 PG 選手権より。残念ながら不成立。

第17回あぶくま洞オープンカップ ハンググライディング大会

2000年11月11日・12日

福島県田村郡滝根村 仙台平エリア

[総合]

1位	高橋 元樹	茨城県	2000点
2位	北野 正浩	千葉県	1299点
3位	斎藤 剛	山形県	1204点
4位	菊地 和美	茨城県	1185点
5位	飯島 八三	福島県	1043点
6位	小島 悠司	神奈川県	1010点

★大会当日の天気予報が最悪であり、大会の成立が心配されたが、どうにか2日間とも飛ぶことができました。今回も何とか選手に喜んでもらえたと思います。仙台平の大会も、第1回1979年から数えて、通算21回を開催することができました。参加選手の減少と固定化が気になります。今回初めてクラス2の大会も行いました。参加の呼びかけが遅かったこともあり、機数が3機と、寂しい大会になりましたが、来年度以降もやっていきたいと思っています。私は、シャカリキになって飛ぶばかりが大会だとは思いません。仙台平はこれからも一般パイロットに楽しんでもらえる大会にしたいと考えています。

[記:佐藤香邦]

新人戦2000

2000年11月18日・19日

山形県南陽市十分一山エリア

[総合]

1位	永光 秀明	千葉県	2530.5点
2位	下平 武彦	茨城県	2408.0点
3位	永井 洋平	東京都	2310.0点
4位	山崎裕一郎	千葉県	2268.5点
5位	旗野 裕亮	神奈川県	2152.5点
6位	大部 義之	神奈川県	2151.5点
6位	田中 裕	神奈川県	2151.5点
8位	杉山 尚	東京都	2132.0点

[女子]

1位	山田由紀子	静岡県	2100.0点
2位	小川 亮子	東京都	1287.0点
3位	星埜 明子	東京都	1267.5点

★毎年、初山頂飛行から1年以内の学生新人フライヤーたちが、テイクオフとランディングの精度という基本技術を競う新人戦が今年も開催された。今年から始まった学生リーグの第2戦でもある今大会に集ったのは、関東の19選手。1日目は大雨と強風でキャンセル。2日目は好コンディションとは言えないものの全員テイクオフでき、大会は成立。優勝の永光選手は2本とも素晴らしい離着陸を見せた。

[記:牧野祐一]



みえスカifesta 2000で HG & PG 体験

三重県伊勢市・鳥羽市での第25回パラシューティング世界選手権にあわせ「みえスカifesta 2000」が開催され、10月1日から22日までの土・日・祝日に、クレーン吊り下げによるハンググライダー体験と、人力トーイングによるパラグライダー体験を実施しました。702名が体験し大喜び。スタッフ(近在クラブに協力いただきました)は重労働でしたが、参加者の笑顔に疲れも忘れしました。

私たちのホームエリア、スカイラインは99年春に開設されたばかり。美しい伊勢志摩国立公園を眼下にフライトしませんか。資料希望者はFAXでご連絡を。

スカイレンジャー三重 森川雅也
事務局TEL/FAX.0598-56-4230

◇僕、最近バイトがキツイんです。

僕は今ハングをやっていて、新しく上級機に乗りたくなりました。中古を探していたのですが見つからず、新品を買うことにしたのですが、なんと値段が3930ポンド。日本円にして約630,000円という驚きの値段です。しかしどうしても欲しいので、交通量調査やバスでのアンケート配布、英会話のジ○スのポスター貼り、海底ケーブルの巻き取りといった堅実なアルバイトでお金を稼いでいます。目指すべき目標があるので、きついバイトも楽しいです……と考えられるようになる自己催眠法はどこで学ぶべきなのでしょう。

ペンネーム:最近脂肪が気になります

◇最近、飛んでません。

仕事が忙しくて……。飛びたい!!課長!有休くださいよ!! ペンネーム:社会人1年生

◇A a a! H a a!

最近、僕のまわりではシャウトするのが流行ってます。

・テイクオフする時。(カッコよく叫ぶにはタイミングが難しい。)

・テイクオフ上空で。(500m上空から届くことが判明。)

・サーマルで一緒になった仲間と。「イーヤッホー!(最近どうなの?)」「イーヤッホー!(ここだけの話だけど……。)」あまりに流行り過ぎて、テイクオフする時、シャウトする事に氣を取られてスタチンしそうな練習生が続出したため、「シャウトはP証

以上」と言うルールができてしまった。先週聞いた話だが、今度パイロット検定の項目にシャウトのカッコよさが入るとか入らないとか……。ペンネーム:もうすぐ坊主♪

◇最近、寒くて寒くて……。

夏用のグローブでは、もうだめですね、さすがに。先週の日曜日、コンディションすご

お題は なあに?

笑いと涙(?)の大空体験、大胆告白!
新世紀第1弾の記念すべきお題は
「最近私、～なんです。」

く良くて、1000mもゲインできたのですが、ペラペラのグローブで、あっという間に手の感覚がなくなってしまいました。あまりの寒さ、というか痛さに急いで降りてきたら、手がカチンカチンに。水がとっても熱く感じるぐらいでした。ほんとに凍傷になるかと思いました。寒かった寒かった……。

ペンネーム:きょろちゃん

◇パンダちゃん。

僕、最近……と言うより、夏からずっと(記憶に無いだけで下手すると1年中だった

かも)パンダなんです。僕の愛用しているサングラスはレンズが大きく、紫外線をほとんどカットしてくれるカッコイイやつです。しかし、そのおかげで日焼けの跡が……。イントラは言ってくれます。「たくさん飛んでる証拠。勲章だよ。」ただし、この勲章は街に行くときスノボの勲章に見えるらしい。パラもまだまだマニアックススポーツなのかなあ……。

ペンネーム:僕の携帯は黄/紫

■次回のお題は「こうして私は空の世界と出会った」です。

カレンダーの写真の風景のなかで飛んでみたくて……とか、アホウドリの気分を知りたかった……とか、学校の先輩にだまされて引きずりこまれた……とか。期待してます!

*

このコーナーでは、お題にそった皆さんの体験談をお待ちしています。笑える話、ホロリとくる話、ビックリする話、大歓迎。200字程度の文章にして、EメールまたはFAXでお送りください。ペンネーム、氏名、住所、電話番号、Eメールアドレスも忘れずに書き添えてください。作品採用の方には、ささやかなプレゼントあり!

Eメール:koho@jhf.skysports.or.jp

FAX.03-5840-8312

「JHFレポートお題はなあにに係」まで。

次回のお原稿締切は1月15日です。なお、文章の主旨を変えずに編集させていただくことがあります。

@sky

Animal farm

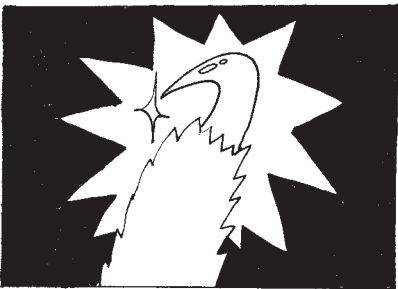
オオアリクイのバクスターの巻

奴には「血と戦慄」の名こそがふさわしい。

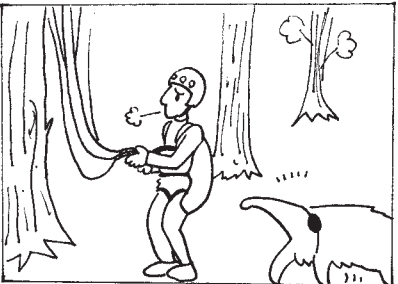


オオアリクイのバクスター！

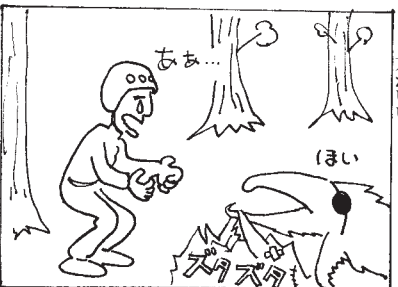
奴の鋭い鉤爪に捉えられたが最期決して逃れる術は無い！



だから…



ツリーラン回収だけは頼まない方がい。



次号に続く！

11月30日までのフライヤー会員登録数

登録年数	9月30日までの登録数	10月の登録数	11月の登録数	有効登録数
1年	6,383	992	595	7,970
3年	4,399	658	350	5,407
合計	10,782	1,650	945	13,377

10月・11月の技能証発行数

ハンググライディング				パラグライディング			
技能証種類	10月の発行数	11月の発行数	11月30日までの発行数累計	技能証種類	10月の発行数	11月の発行数	11月30日までの発行数累計
P証	7(1)	9(2)	4,910	P証	106(26)	58(12)	18,875
C証	11(1)	4(0)	6,878	NP証	118(29)	89(27)	9,537
B証	24(3)	25(9)	11,491	B証	162(52)	116(29)	40,674
A証	25(4)	27(9)	11,901	A証	283(98)	163(53)	44,499
補助動力証	0	0	126	補助動力証	0	0	919
XC証	4(0)	5(1)	1,132	補助動力NP証	0	0	66
タンデム証	0	0	33	補助動力B証	2(0)	1(0)	129
				補助動力A証	0	1(0)	158
				XC証	42(8)	17(2)	3,790
				タンデム証	36(1)	13(2)	415

*()内の数字は発行数中の女性の人数です。

空のお
その35久保 苗さん
(くぼ なえ)

右が久保苗さん。お姉さんの里さんと。



特別出演、松本晴治氏。

苗さんは現在高校3年生。小学生の時、おじいさんに海岸のエリアでタンデムしてもらったことをきっかけに、中学生になってパラを本格的に始めました。実は、苗さんに影響され、お姉さんの里さんもパラを始めて、同時にP証取得となりました。よく通っているエリアは高知県の高岡エリア。師匠は苗さんたちのおじいさん(松本晴治さん)。エリアに行く時は、いつ

も一緒です。おじいさんは、苗さんが飛んでる時は、いつも見ていてくれます。そんなおじいさんを苗さんは、とても尊敬しています。早く上達して、おじいさんと一緒に飛びたい。そして、初めてタンデムしてもらった、海辺のエリアで3人一緒に飛びたい。これが、苗さんの夢だそうです。パラも受験勉強もがんばってください。

10月・11月のパイロット証取得者

(敬称略 数字は認定日)

パラグライディング

10.4 岩澤 秀和	10.12 小川 中	操 英之	10.23 貝沼 ひと美	10.31 藤澤 順次	11.10 八畑 政良	11.22 高木 奈穂
10.4 鈴木 清	10.12 田中 原	成 晃正	10.23 貝沼 ひと美	10.31 熊谷 幸子	11.10 八畑 政良	11.22 高木 奈穂
10.4 笠原 浩美	10.16 笠原 浩美	勝 正	10.23 瀧田 憲一	10.31 嶋岡 幸子	11.10 八畑 政良	11.22 高木 奈穂
10.4 石田 義彦	10.16 高橋 悦子	勝 正	10.23 村上 憲一	10.31 青木 潤	11.10 八畑 政良	11.22 高木 奈穂
10.4 堀川 則雄	10.16 高山 悦子	勝 正	10.23 小原 弘美	10.31 栗木 信美	11.10 八畑 政良	11.22 高木 奈穂
10.4 瀬戸 裕郎	10.16 高橋 悦子	勝 正	10.23 小原 弘美	10.31 栗木 信美	11.10 八畑 政良	11.22 高木 奈穂
10.4 田辺 利久	10.16 高橋 悦子	勝 正	10.23 小原 弘美	10.31 栗木 信美	11.10 八畑 政良	11.22 高木 奈穂
10.4 上野 正隆	10.17 富高 孝夫	勝 正	10.23 小原 弘美	10.31 栗木 信美	11.10 八畑 政良	11.22 高木 奈穂
10.4 村上 昌宏	10.17 清水 孝夫	勝 正	10.23 小原 弘美	10.31 栗木 信美	11.10 八畑 政良	11.22 高木 奈穂
10.4 太田 綾子	10.17 清水 孝夫	勝 正	10.23 小原 弘美	10.31 栗木 信美	11.10 八畑 政良	11.22 高木 奈穂
10.5 平尾 智子	10.18 杉本 宜郁	勝 正	10.23 小原 弘美	10.31 栗木 信美	11.10 八畑 政良	11.22 高木 奈穂
10.5 乙黒 和秀	10.18 杉本 宜郁	勝 正	10.23 小原 弘美	10.31 栗木 信美	11.10 八畑 政良	11.22 高木 奈穂
10.5 浅見 千加世	10.18 杉本 宜郁	勝 正	10.23 小原 弘美	10.31 栗木 信美	11.10 八畑 政良	11.22 高木 奈穂
10.5 高野 征広	10.18 杉本 宜郁	勝 正	10.23 小原 弘美	10.31 栗木 信美	11.10 八畑 政良	11.22 高木 奈穂
10.10 高野 康彦	10.18 杉本 宜郁	勝 正	10.23 小原 弘美	10.31 栗木 信美	11.10 八畑 政良	11.22 高木 奈穂
10.10 福元 一弘	10.18 杉本 宜郁	勝 正	10.23 小原 弘美	10.31 栗木 信美	11.10 八畑 政良	11.22 高木 奈穂
10.10 新藤 敦	10.18 杉本 宜郁	勝 正	10.23 小原 弘美	10.31 栗木 信美	11.10 八畑 政良	11.22 高木 奈穂
10.10 中山 登美子	10.18 杉本 宜郁	勝 正	10.23 小原 弘美	10.31 栗木 信美	11.10 八畑 政良	11.22 高木 奈穂
10.10 鈴木 深	10.18 杉本 宜郁	勝 正	10.23 小原 弘美	10.31 栗木 信美	11.10 八畑 政良	11.22 高木 奈穂
10.10 大坪 洋美	10.18 杉本 宜郁	勝 正	10.23 小原 弘美	10.31 栗木 信美	11.10 八畑 政良	11.22 高木 奈穂
10.10 柳田 高徳	10.18 杉本 宜郁	勝 正	10.23 小原 弘美	10.31 栗木 信美	11.10 八畑 政良	11.22 高木 奈穂
10.10 洲上 高厚	10.18 杉本 宜郁	勝 正	10.23 小原 弘美	10.31 栗木 信美	11.10 八畑 政良	11.22 高木 奈穂
10.11 久保 裕民	10.18 杉本 宜郁	勝 正	10.23 小原 弘美	10.31 栗木 信美	11.10 八畑 政良	11.22 高木 奈穂
10.11 熊谷 和也	10.19 松島 俊夫	勝 正	10.23 小原 弘美	10.31 栗木 信美	11.10 八畑 政良	11.22 高木 奈穂
10.11 田中 俊久	10.19 松島 俊夫	勝 正	10.23 小原 弘美	10.31 栗木 信美	11.10 八畑 政良	11.22 高木 奈穂
10.11 浦田 義孝	10.20 杉江 徹	勝 正	10.23 小原 弘美	10.31 栗木 信美	11.10 八畑 政良	11.22 高木 奈穂
10.12 岡本 義孝	10.20 杉江 徹	勝 正	10.23 小原 弘美	10.31 栗木 信美	11.10 八畑 政良	11.22 高木 奈穂
10.12 杉田 真利子	10.20 菊池 伸介	勝 正	10.23 小原 弘美	10.31 栗木 信美	11.10 八畑 政良	11.22 高木 奈穂
10.12 松山 清	10.21 後藤 健彦	勝 正	10.23 小原 弘美	10.31 栗木 信美	11.10 八畑 政良	11.22 高木 奈穂
10.12 宮脇 一葉	10.23 小野 雅彦	勝 正	10.23 小原 弘美	10.31 栗木 信美	11.10 八畑 政良	11.22 高木 奈穂

●編集を終えて

いよいよ21世紀……といってもピンとこないが、新しい年にふさわしく気を引き締めていこう。2000年は重大事故が何件も起きてしまった。広報出版局は2001年も「安全飛行の情報」を優先して伝えていく。ぜひ参考にしてほしい。

JHF広報出版局

JHF ホームページもご覧ください。

<http://jhf.skysports.or.jp/>

JHFレポート1・2月号(No.163)

発行日 2000年12月20日 定価10円
 発行 (社)日本ハンググライディング連盟
 〒112-0003 東京都文京区春日2-24-11
 春日Shimaビル8階
 TEL.03-5840-8311 FAX.03-5840-8312
 編集 JHF企画部広報出版局
 印刷 日本印刷(株)
 この印刷物は再生紙を使用しています。